



# 北斗市 (有)澤田米穀店

## 『お米のおいしさ・米菓子(ポン菓子)を世界へ』

### 【主な品目】

米菓

### 【主な輸出先国・地域】

マレーシア、アメリカ、中国、シンガポール

### 【輸出に取り組んだ経緯と概要】

#### ◆【澤田米穀店のこだわり】

お米のおいしい食べ方の提案として、化学肥料を減らした特別栽培米の提供、JGAP認証の原料を使ったポン菓子、玄米のクラフトビール等オリジナル商品開発。

#### ◆【澤田米穀店の強み】

経営規模が小さいことから、原料調達から製品までの安全性を管理することが容易であり、子どものアレルギー対策にも対応可能である。味付けを工夫することで輸出先国の嗜好に合わせることも容易である。

◆2018年(平成30年)ジェトロ北海道が開催したシンガポールの商談会にポン菓子を試行出展した。

◆海外でも北海道産の農産物を原料とする食品の安全性への信頼度が高く、食物アレルギー対策としてもポン菓子の需要が見込めることを実感した。

### 【輸出実績】

	輸出量(kg)	出荷時期
令和2年	20	通年

### 【輸出に取り組む際に生じた課題及び対応】

- 特別栽培米を生産する知内町帰山農園(JGAP認証)とともに農商工連携事業の認定を受け自社工場を整備。
- 消費期限を長期化(1年)するために、北海道食品加工研究センターの技術支援を受け、加工菓子で油を使用せずに製品を作る特許技術で製造。
- 品質保持のため、低温貯蔵倉庫を建築。
- 輸出コストを削減するため、マレーシア向けについて商社経由から自社直接取引に変更。
- 2020年(令和2年)には輸出先国(マレーシア、アメリカ、中国、シンガポール)へ20kgを輸出。

### 【今後の課題・展望】

- 新たな輸出先国としてベトナム、タイの商談を継続するとともに、農林水産省の補助事業等を活用して加工場を拡充。
- 輸出先国のマーケットインに対応した菓子の形状や味、パッケージの検討。
- 2023年(令和5年)の輸出数量を現在の20倍である400kgを目指す。
- 2025年(令和7年)の輸出数量を現在の60倍である1,200kgを目指す。

【活用した支援・施策】 令和2年度補正

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業のうち需要創出・拡大整備支援事業

【ウェブサイト】 <https://sawada-gohan.com/about/> 【連絡先】 TEL:0138-73-2210



ふっくらりんこ



店内商品